

主宰紹介

内海良太 昭和 13 年 10 月 東京生（現在千葉県佐倉市在住）

内海良太主宰は 滝沢伊代次、大坪景章主宰の後をうけ、平成 29 年 11 月から三代目の主宰に就任しました。

「万象」の創刊準備期から幹事として計画、実施に参加していますので「万象」を隅々まで理解し、新主宰だからといって何ら気負いはないようです。

しかし、この十五年の間、「万象」を取り巻く環境は大きく変化しています。具体的に言えば高齢化の問題です。「万象」の高齢化は継続の勲章だと人はいいますが、この問題は直接経営面に影響しますので、新主宰にとっては大きな試練です。

いまのところ内部努力で切り抜けていこうと、手近なところから改革を進め、各幹事の間でも内部改革、経費節減の考えが浸透し効果が見えはじめていますので、なんとか乗り切れそうだとっています。

結局は、同人、会員に安心していつまでも作品発表の場、俳句を楽しめる環境を提供しようとする考えにほかなりません。

俳句実作面では先代の敷いた路線を受け継いで、俳句の固有性を重んじ、即物具象にもとづく写生を地道に実践していこうと呼びかけています。

内海主宰は写生を基本に「新しみのある俳句」を目指したいとも常々言っています。季語と事物の新しい関係の発見です。取り合わせの新しさともいっています。

新しい発見に感動と喜びを感じながら、「ちまちませずにおおらかに実作にはげみたい」がモットーだといっていて、これからが楽しみです。

- 昭和 54 年 転勤の沖縄から東京に帰る。この頃から J A L 職場俳句会で俳句をはじめ。沢木欣一先生は昭和 45 年ごろ J A L 俳句会を指導していた。（句集『赤富士』）
- 昭和 57 年 小松空港に転勤、寺井の「風」の新田祐久氏の句会で指導をうける。富山、福井を含め北陸の風土に大いに親しむ。
- 昭和 62 年 「風」同人。年末に東京に帰り、千葉の「風」句会に参加。この頃から俳文学の村松友次に師事「芭蕉の伝記、俳諧史」の研究会に参加（平成 21 年村松先生没まで続く）
- 平成 04 年 「風」賞。
- 平成 06 年 関西空港転勤。細見綾子先生から丹波句会の指導を委嘱される。大和、吉野熊野の歴史に親しむ。
- 平成 10 年 東京に帰る、平成 15 年まで勤務する。
- 平成 14 年 「風」終刊により、「万象」創刊準備委員。4 月創刊。
- 平成 19 年 「万象」編集人。
- 平成 29 年 「万象」主宰。